

5 本時の学習指導

(1) 目標

投げ技で「一本」を取ることを目指し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、考えたことを他者に伝えることができる。(思考・判断・表現)

(2) 『本時』における学びをたのしむ生徒の姿について

単元を通した目標である投げ技で「一本」を取ることを目指し、グループ練習や他グループとの練習試合に取り組むことで、前時に見つかった課題の解決に意欲的に取り組む姿勢を引き出したい。また、グループ練習や練習試合を通じて、自ら考えた課題解決の方法を実践・検証・再考し、工夫を重ねながら「一本」を取ることで、たのしさを実感する姿を目指す。さらに、仲間や対戦相手の意見を参考にしながら授業内容を振り返り、得られた学びを次時の課題へとつなげていく姿勢を期待する。

(3) 本時の学習展開

生徒が思考し続けるための 教師の意図的な働きかけ 手だて②	予想する生徒の姿	手だての有効性はどうであったか (生徒の姿の実際・改善点など)
1 前時に考えた「本時に活かしたいこと」をグループ練習の中で実践し、同じグループの生徒から意見を聞く。 投げ技で「一本」を取るために、自分の考えをもって練習試合に取り組むことができるよう、問いかけを行い、目的に合った方法になっているかを確認させる。 T:「どうして〇〇したの」 T:「相手はどうなると思う」	・反時計回りで移動すると、相手を右前に崩しやすくなると思ったからです。 ・相手は倒れたくないから右足を前に出すと思います。	
2 他グループと練習試合を行い、両グループの生徒から意見を聞く。 成果と課題を知り、解決方法について再考できるようにするために、実際に対戦した相手をはじめ、両グループの生徒から意見を聞く時間を設定する。	大内刈りをかけて、前に体重をかけたら背負い投げをかけようと思っていたよ。 →大内刈りで足を引っかけられた時、あまり押されなかったから耐えられたよ。 →体が相手から離れていたのかな。次は相手との距離を縮めてみよう。	
成長や課題を認識し、次の学びにつなげる 「振り返り」の活用 手だて③ 3 振り返り書く。 友達と比較することを通して、新たな考えに気付かせたり、より発展的な思考を促したりするために、振り返りの視点【①分かったこと】と【④次に生かしたいこと】を設定する。また、振り返った内容を全体で共有する。	①分かったこと 同じ方向の技を続けてかけるのも有効ということが分かった。 ④次に生かしたいこと 小内刈りで崩して、大内刈りで倒したい。	

(4) 評価

投げ技で「一本」を取ることを目指し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに考えたことを他者に伝えることができたか、活動や話し合いの様子、ワークシートの記述により判断する。